

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：下保 修

事業名	一般国道439号 杓子バイパス第二工区	事業区分	一般国道	事業主体	高知県						
起終点	自：高知県高岡郡四万十町葛籠川 至：高知県四万十市住次郎	延長	4.2km								
事業概要：一般国道439号は、徳島県徳島市から高知県四万十市へ至る延長約355kmの幹線道路であり、高知県の中山間部の住民の日常生活を支える重要な路線である。杓子バイパス第二工区の現道は大型車の通行が出来ない幅員狭小区間、線形不良箇所が続いており、大雨等の異常気象時の事前通行規制区間となっている。こうした現道状況の改善を目的とした延長4.2kmの事業である。											
H10年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H10年度用地着手	H10年度工事着手								
全体事業費	96億円	事業進捗率	14.3%	供用済延長	0.2km						
計画交通量	1,300台/日										
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用：(残事業)/事業全体 59 / 76億円		総便益：(残事業)/事業全体 86 / 87億円							
	(残事業)	事業費：54 / 71億円 維持管理費：4.9 / 5.1億円		走行時間短縮便益：79 / 80億円 走行費用減少便益：6.4 / 6.3億円 交通事故減少便益：0.90 / 0.90億円							
事業の効果等					他9項目に該当						
<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（現道の普通車すれ違い困難区間を解消する） 災害への備え（現道の事前通行規制区間を解消する） 											
関係する地方公共団体等の意見											
<ul style="list-style-type: none"> 地域の生活を支え、高知県山間部の住民にとって「命の道」となる国道439号の整備促進を求め、9市町で構成された高知県国道439号整備促進期成同盟会より要望を受けている。 											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等											
<ul style="list-style-type: none"> 平成17年4月、市町村合併により四万十市が発足。（中村市、西土佐村） 平成18年3月、市町村合併により四万十町が発足。（窪川町、大正町、十和村） 											
事業の進捗状況、残事業の内容等											
<ul style="list-style-type: none"> 現在までに終点側0.2kmを供用している。 残事業はトンネルや橋梁を含む未供用区間4.0kmの整備である。 											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等											
<ul style="list-style-type: none"> トンネルや橋梁等の建設費が大きい構造物があり、近年の公共事業費の縮減により事業期間が長期化している。今後は、県下全体の改築事業の進捗によりトンネル等の大型構造物への着手時期が課題となる。 											
施設の構造や工法の変更等											
<ul style="list-style-type: none"> 切土法面にポット苗を植生することで、周辺の豊かな自然環境への負荷を軽減すると共に、自然景観の復元を図っている。 											
対応方針	事業継続										
対応方針決定の理由	<ul style="list-style-type: none"> 観光、生活、合併の観点や災害時・緊急時における時間短縮効果の観点から、国道439号の事業を「継続」とする。ただし、トンネルの費用は多額であるため、トンネル着手時には再度、審議を受けること。 										
事業概要図											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td style="width: 30px; height: 15px; background-color: #cccccc;"></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td style="width: 30px; height: 15px; background-color: #e0e0e0;"></td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>						凡 例			再評価箇所		うち供用中
凡 例											
	再評価箇所										
	うち供用中										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。